

市民の国際交流活動

①「国際交流を考える市民の会」の活動

横瀬多喜

一——いきさつ

① 創立までの経緯

この会のルーツは神奈川県と横浜市の国際感覚にある。それは日本ではおそらく例のない地方自治体の国際交流を、県・市共催で国際交流「ヨコハマムーブメント」として実に多彩な行事を一カ月半にわたり展開したことだ。一九七五年秋のことだったがその一環の論文募集は「私にとって外国とは……国際交流について考える」をテーマとし、審査員は長洲知事、飛鳥田市長、国際ロータリークラブ上野ガバナール、有名教授たちだった。

一年甲斐もなく私は野次馬気分分で応募した。やがて新聞は応募者一〇六人、優秀者一〇人を報じ私の氏名を発見して驚いた。表彰式には市長、上野氏、県・市の幹部等が出席されて賑やかな華やいだ雰囲気だったが、市発行の「勤労市民ニュース」(一九七六年一月号)に本橋和代夫人と私のと二編を掲載したものが配布され二度ビックリした。

座談会の席上、私はこのメンバーで時時話し合う会がほしいと提言したところ全員の賛成を得たが、その後県・市共にご多忙だし私共で自主的に進めることにして、何回も打合せした結果英国人一人

を含む八人で次のように発足した。

⑦ 創立 一九七六年五月十六日

⑧ 名称 国際交流を考える市民の会、英語は Yokohama International Society (Y.I.S.と略称)

⑨ 代表 横瀬多喜

⑩ 行事 毎月一回当分は打合せと見学会

なお、県の松本信輔氏、市の石川孝樹氏は業務担当者だが個人として参加してもらった。

またこの話合いの中で、交流の主な相手は外国人留学生か一般外国人かについては両者共に数多く交流するのがよい、論文応募者一〇六人に働きかける、時期

- ①「国際交流を考える市民の会」の活動
- ②「横浜国際交流ボランティアの会(Y.K.V)」の活動

- 一——いきさつ
- 二——実際にやったこと
- 三——問題点
- 四——今後やりたいこと、市への提言

については半年くらい後にする、会の目標としては国際港横浜にふさわしい市民意識の形成に役立つ行事を持つ、さらに長期の目標としては横浜独特の都市の魅力を新しく創造するため「国際学生の村」づくりなどを考える、となった。(詳細は後述)

② 運営をめぐる試行錯誤

打合せと見学会を毎月やっていたうちに外国や地方に転勤等で十月には半数になったので、前記一〇六人に働きかけたところ三五人となり、海外生活経験者が相対的に多く、女性も約四割の楽しい顔ぶれ

となった。

そこで創立以来の経過や今後の運営について話し合い、次のことを決めた。

⑦世話人は庶務、会計、会計監査各二人と代表一人の計七人、任期は一年、選挙で決める。

④会員には外国人を一〇人くらいはほしいが、質と世話人の事務能力向上のため国際感覚の豊かな方々の参加を歓迎する

⑤会計年度は国と同じ、経費は入金会千円、年会費千円。

ところが半年後の七七年四月総会で様変わりとなった。

⑦世話人は代表だけとし月例行事の企画運営は会員三人くらいを一組として当番制にする。

④県市の事業計画との協力調整に努める

⑤会則は設けない。

このとき年間を通しての世話人の要否と円滑な運営との関連について大いに議論したが、とにかく、やってみることに決した。しかし半年もすると当番の熱心さや独創的な企画はよいが、例えば会員名簿、会計の整備など長期的な事務や企画などで、問題が多いことをほとんどの会員が理解し、七八年三月総会で次のようにした。

⑦会則を設け会員の入会は入会願、退会は退会届による。手続として入会希望者は二、三回例会に出席のうえ世話人会で

入会を決める。

④世話人は会長一、庶務、企画、会計、会計監査各二人計九人とし世話人会を設け任期は一年。

⑥月例行事は当番制を続け当番は世話人会に出席する。

⑤入会金は原則として基金として積立て、会費は二千円とし経常費に充てる。

次いで七九年四月総会で世話人の任期を二年、半数を毎年交替とし運営は全く安定した。私は創立以来連続四年会長に選挙された。

二——実際にやったこと

年一回の総会、二回の親睦会のは毎月行ったものを類別して例示すると次のとおり。

①—見学と座談会 汐見台留学生研修センター、移住センター、造船センター、大佛次郎記念館、Yokohama Country Athletic Club (YCAC) Yokohama International School.

②講演会 教育問題／アルジェリア大使、オーストラリア事情／大使館員、インドシナ三国事情／時事通信部長、日本人の宗教観／フェリス女子短大米人教授、米国人の見た詩人「李白」／米国国務省日本語研修所長、その他 PLO 東京事務所長、ユニセフ基金部長など。

③野外見学等 横浜外人墓地、町田市子供園（留学生一五人とスポーツ余興・食事等）

④県・市の行事に協力 国連デー、アラブ民芸展、カナダ・スウェーデン・ニカラグア各ウィーク、世界人形展。

⑤会員の体験談 人権と言論の自由／英国人雑誌記者、監獄から見た中国／在監一年の日本人、東京サミット裏話／米国外交館員、東アフリカ情勢／在ウガンダ三年半の日本人、芸術と人間性／寮州人教師、外に米台北各国旅行報告

⑥会員のグループ活動 外国人四人と日本人七、八人で年に三、四回自由懇談。

なお、県国際交流協会へ団体加入して協力していること、外人墓地の運営難に對し会としてささやかな寄付金を出したこと、市発行の Echo に会の PR をしたこと、日本最古最大発行部数の英文週刊誌 Weekend に会の活動が取り上げられたこと等もあった。

三——問題点

①—外国人会員の増加難

現在四人、入会を希望して月例会に出席している者二人（印度人と米国人）と少ない。外国人会員と共に種々努力しているが一般在留者は「会員になってもとくにメリットがない。日本人とは仕事や

私生活で国際交流の実をあげているし入会するまでもない」との意見が多い。

一方留学生は短期の者は接する機会が一、二回で終りだし、長期の者は二年目か三年目になってやや時間的ゆとりのある生活になるようだが、その頃には日本人学生や親しい友人もでき、会にはその年齢構成上（二〇歳代五人、三〇歳代一人、他は四〇歳以上）親しみにくいようだ。留学生の会員が一人いたが卒業して帰国した。ホームビジットをやっている会員もいるが金と時間を要し容易ではない。ホームステイはさらに困難のようだ。個人的に中国、朝鮮、東南ア、欧米の諸国人と交際している会員は多い。要はじっくり時間をかけることだ。

②—月例会の出席率が悪い

現在会員は三七人（在米国、在英国各一人を含む）で、行事に魅力のある時は会員外も含め五〇人くらいの出席だが、通常は一五人〜一〇人くらいだ。開催日を概ね土曜午後になっているのは、週日は勤務や家事で、日曜はわざわざ出かけて来なければならないので無理だからだ。要は行事内容の魅力と優秀な外国人会員を増加して接する機会を多くすることだろう。

③—会の財政が貧弱

入会金千円と僅少の寄付金は基金に積立て、経常費には通信費と外部の講師へのささやかな謝礼などがあり、また留学生との集いなどでは留学生に負担をかけさせずに会費二千円で運営している。月例行事の案として例えば箱根ユネスコ村見学、会員の小旅行などあるけれども実現していない。今後は県又は市との共催をもっと多くし、会は人的サービスをして経費は県市負担で進めてみたい。

④—グループ活動

外人会員と日本人有志のフリートークの他に、文学、歴史、語学等の話はできているが、知識、熱意の程度の差等で実現していない。さらに努力したい。

四—今後やりたいこと

市への提言

問題点として述べたこと等を今後さらに改善努力するほか、市への提言は全会員の目標として会の目的にあい、港横浜の魅力創造するもの——それは「国際学生の村づくり」が最もふさわしいと思う。冒頭の応募論文に書いたことだし市の受入れが前提だが——。

①—国際学生の村の必要性

明治以来百年余で横浜村は日本を代表

する横浜港を有す市となり世界的にも有名になった。今後ますます発展させたいがそれは港湾施設や貿易額、人口等だけでなく、国際都市として内外人が心で結ばれる安らぎ、住みよき、離れ難い忘れ難い魅力をかもし出す港横浜であってほしい。

ところが現在、日本には約六千名の外国人留学生在が来ており、そのうち約千名は政府関係で給与、寮等比較的条件はよいが、約五千名は私費の諸君で、最も困っているのは下宿の問題だ。県内と横浜市内の相当多数の留学生も悩みは同じだ。これに対し国や県や市は何をしたであろうか。食住習慣等の相異で一般市民の家庭への受入れは極めて少ない。

かつて一九〇四、五年の日露戦争後、日本を学びに来た約一万人の中国人留學生に対し、日本人はチャンコロとよび、ひどい下宿で冷や飯を食わせた。帰国後、その大部分は排日の急先鋒となった。第二次大戦敗戦の根本原因は将にこれだったと私は信じて疑わない。

欧米諸国への留學生は、帰国後、親欧米となる者が多いのと比べ、甚しい相異である。

今や、敗戦後の短期間に立ち上った日本の謎を解明に来ている留學生諸君に対し、再び同じ誤りを繰返しているのではあるまいか。

数年前田中角栄氏の東南アジア訪問時の暴動、多年、留學生の親身の相手をしている穂積五一氏（アジア学生文化協会理事長）の随筆抄「日本人から離れる」などに示されているように、現在は誠に憂えるべき事態を示し、その解決は今日緊急の課題だと思ふ。

根源は有色人種への誤った民族観と国際性に欠ける多くの日本人にあるが、在日留學生の生活の中で住の占める役割の重大さを真剣に考え、具体策をたて実現することが必要である。

②—国際学生の村の内容

留學生相互及び日本人学生との理解親睦を深め、住の問題解決の一助にするため次の条件のものを建設する。

①各国別に国の特徴をあらわす建物とする。ただし留學生の少ない国はまとめて、例えばアフリカ館、ラテンアメリカ館とする。

②一戸に一〇人〜一五人くらい収容し自炊のできる施設にする。

③日本人用のは歴史的な時代をあらわす建物とし三戸か四戸くらいにする。

④管理連絡用の一戸には集会用ホール、大食堂、図書室、卓球場等を設ける。

⑤相当広い運動場にフットボール、バスケットボール、テニス等の施設をもうける。

⑥森林が大公園に隣接し市街の中心より余り遠くない地域とする。

なお一〇年くらいの長期計画とし、東京都村山と箱根のユネスコ村、愛知の明治村は参考に値する。

③—村づくりの具体策

神奈川県下の外国人学校は欧米系四校、朝鮮系六校、中国系二校の計一二校で、生徒数は三千名弱である（県私学宗教課調）。これに呼応する数の日本人学校（幼稚園・小学校・中学校できれば高校生）の生徒に参加してもらい、「国際学生の村づくり基金募集フェスティバル」と称する祭りを開催する。フェスティバルの主催者は、市と私共の会とし、生徒たちだけでなく、有名演奏家等にも参加をおねがいし、大いにPRして入場料と寄付金を頂戴する。仮に一年で百万円の蓄積とすれば五年で五百万円、一〇年で一千万円だ。私共の会で双方の学校を説得して実現にこぎつけたいができるかどうか。市の積極的な「やる気」が先決だ。準備に一、二年とその後の話し合い、人の交流は民際外交の実現であり学生・生徒の国際交流であり教育上の意義は大きく、先生・生徒は変わっても毎年親しきは増し、国際学生の村づくりの歓びと横浜への郷土愛も湧くと思う。要は五百万円や一千万円は起爆剤とし

て会がつくるので市は県と相談して早目に適地を決め、適宜予算化して実現してほしい。

④—むすび

私は祖国と平和を愛し日本人が好きだ。だからこそよかれかしと願望し敢え

て苦言を呈する。人生の凡そ半分を外国で暮らし、主に教育と労働行政の経験から私の感じた日本人最大の欠点は国際性の不足だ。工業生産力には強いが食糧資源、防衛等いづれも弱い日本、もし世界に愛される日本になれば二一世紀での命運は明らかであろう。『戦艦』牛

場信彦氏のような日本人が一〇人もいたら、日本の国際的地位は遙かに高くなる」と、昨年来日した米国人有識者たちが再三言ったと新聞は報じた。松下幸之助氏の政経塾、中内功氏の流通大学、中山素平氏の国際教育大学、いづれも的は国際人の徹底的養成訓練であろう。

私財もいわゆる顔もない私は、アイデアと情熱と実行力でミナトヨコハマを世界の横浜、魅力ある横浜にするひとかけらになりたいのである。国際学生の村は横浜の異名となるであろう。

△国際交流を考える市民の会長△

②「横浜国際交流ボランティアの会YKV」の活動

小山八千代

一——グループの性格と誕生まで

横浜国際交流ボランティアの会（略称YKV）は、良き民際外交の担い手を目指して結成された。入会の動機はまちまちであるが、誰もが平和な世界の実現を願ひ、そのためには各国の人々が互いに相手の文化を尊重しながら共存していかなければならないと考えている。また歴史的にも外国人との接触が多かった横浜という土地に生活する者として、共にこ

の複雑な世界情勢の中で日本が生きる手だてを学び、一民間人としてそのため役立つ道を求め行動していきたいと願っている。

五九人の会員は、特別会員二人を除いて、全員が昭和五十一年度から横浜市教育委員会が開講している婦人ボランティア育成講座Aコース（国際交流のためのボランティア育成コース）の受講生である。五十一年度、五十二年度、五十三年度の各期受講生をそれぞれ一期生、二期

生、三期生と呼び、受講後それぞれにグループ活動を希望する者が集まって各期の会を結成した。そして市教委の職員からの働きかけもあって一期の会（Yokohama Hens Society）、二期の会、三期の会が、五十四年四月に連合して、横浜国際交流ボランティアの会を結成した。対外的な窓口を一本化するとともに、各会がそれぞれの特色を保持しながら活動していく道を選ぼうという考え方から、少くとも初めの一年間は連合会の形をとる

- 一——グループの性格と誕生まで
- 二——一年歩いてきて思うこと
- 三——夢
- 四——最後に

こととなった。これは将来、自然な形で各期の仕切りが取り外されればそれでよし、そのまま連合会として続くのもよしという、融通性に富む選択であった。

実際の運営方法は次のように決めた。

- ①「企画委員会」「個人ファイル作成委員会」「活動の場を広げるための委員会」の三つの小委員会によって、会の運営が支えられる。
- ②各期の合同連絡会を月一回持つ。
- ③会計は各期ごとに処理し連合会経費は三等分する。
- ④各会が個々